

令和6年能登半島地震 に添える

私たちは、2011年に東日本大震災を経験しました。当日から数日は大変に寒い日が続きました。今回の、元日の夕方に起きた能登半島地震発生に際し、あの時の震災を思い出しながら、石川県の方々が経験する過酷な日々を思うとき、いまは募金での支援しかできないでいます。我々が経験したことを思い出しながら、いろはかるた風にしてお伝えしたいと思いました。

- ① **いま、なにができるのかを考えておく**＝こころどもの、災害文化の再生、災害の伝達
- ② **漏電火災は怖い、災害時の関連火災は消火が難しい**＝消火体制が困難で広域に延焼
- ③ **花より団子、災害や避難状況を見て敵時適材の供給**＝ミスマッチは足かせになる。慎重なる判断が必要。
- ④ **逃げる手もあるが留まる手もある**＝余震が続きます。その場での判断が大事、そのための正確な情報の入手が必須。
- ⑤ **骨折り損のくたびれもうけ**＝災害時には、無駄なく安全を確保すべし、様々に比べる余裕なし(即断即決、経験知の発揮)
- ⑥ **変動を実感する大地震**＝地球は生きている、それに生かされている。
- ⑦ **遠い一家よりも近い隣**＝実感するコミュニティ、助け合うことの力、行政支援が支える。共助の実践の場。
- ⑧ **力を合わせるには、まず公助**＝物流、インフラの確保したうえで、住民の共助が力を発揮する場に移行していくことが望ましい。
- ⑨ **精言汗のごとし**＝災害発生時は、試行錯誤が許されない。先を見て手を打っていくと同時に果敢のない修正。
- ⑩ **塗り箸でそうめんを食う**＝支援がまどろっこしいと思うことがある。優先順位があることも知ってほしい。
- ⑪ **類は友を呼ぶ**＝余震は熊本地震を超える回数でおきている。8日目で震度1以上のものが1200回を超える、家に戻るのは危険。辛抱を願う。

- ㊦ **鬼は外、福は内**＝もうすぐ2月、何とかめどをつけたい復旧、しかし道は遠い。
- ㊧ **我に来て遊べやさびしい雀の子**＝決して一人ではない、様々な救いの手がある。
決して忘れない、忘れられない。
- ㊨ **活断層は、どこにでも眠っている**＝既知のものほかに未知もある、よそ事ではない備えが必要。
- ㊩ **火災を出さないために万全を**＝様々な原因で火災が発生するが、火災発生は気持ちを落ち込ませる。関連災害(火災、窃盗など)防止を万全に。
- ㊪ **旅は道連れ、世は情け**＝近くに人がいて、知らない人に関心を持ってもらうことこそが心が頼もしい。一人でないことを信じたい。
- ㊫ **連続地震にはあきれはてる**＝慣れることのない地震は、ダメージを受けた被害地に新たな被害を呼び起こす。二次災害に要注意。
- ㊬ **その場をしのげば、すべて先送り**＝先を見据えた達観した、これまでの流れではない地域の復興構想が必要となる。
- ㊭ **月夜に蓋を抜かれる**＝避難中にとんでもない想定外のことが起きることがある。想定はできないが、最低限での何があってもいいようにしておく。
- ㊮ **寝ることが、先ずは健康管理**＝寝るための工夫と体を怠けさせないで動かすこと。
- ㊯ **名乗りを上げることに躊躇なく**＝遠慮しないで、体調や必要なことを話すこと。後の祭りにならないように。
- ㊰ **楽に苦あり、苦に楽あり**＝自分が助かったから人も助けることができる、様々な経験を次世代へ生かす。
- ㊱ **胸を割ることで、胸が晴れることもある**＝親しい人と会話する、何気ないことを手伝うことの大切さ。
- ㊲ **海を山にすることは無理でも、陸になる**＝隆起が生じて港の出入りが不能、復旧に難。

地殻変動が復興のカギ。

- ㊦ **イライラ、いらだちは当たり前、外に出て一呼吸**＝気分転換をする、避難所運営を手伝うことでの得られるところの使命感だけでも晴れるもの。
- ㊧ **軒先避難にも思慮深く**＝安全と書いていても思いがけない危険因子があります。情報の収集で健康管理。
- ㊨ **お負ふた子に教えられて浅瀬を渡る**＝様々なことに直面、素直になって教えられることで気楽になれる。意地の張り合いはやめ。避難所は共同生活。
- ㊩ **果報(くわほう)は寝て待てくらいで過ごす**＝あきらめないで、自然に時期が来ることを待つぐらいの気持ちで。自分を責めないようにしたい。
- ㊪ **役割を自分で見つけよう、避難所ではお客さんではない**＝自分でできること、自分がしてほしいことを実践。役割取得で気がまぎれるし、達成感も・・・。
- ㊫ **まさかのことが起きるのが自然災害**＝想定外を少なくすることが防災
- ㊬ **体調管理には、は(話す)・ね(寝る)・う(動く)・た(食べる)です**＝じっとしては だめ、自ら何かをすること。
- ㊭ **噴砂現象が多発、後遺症に注意**＝道路陥没、盛土崩壊などが後発して起きることが多い。底なし沼になっていることもあり、注意深く慎重に通る。
- ㊮ **志あれば、事竟になる**＝めげずに頑張ろう、これから様々な支援で復旧されることに違いない、信じること。
- ㊯ **営力とは何者かを知ったことで知恵がわく**＝地球内部のとてつもない力によって、想像を超える現象が発生する。いかにかわすのか、どう備えるのかに工夫が必要。
- ㊰ **寺から山へのようにあべとべにならないように**＝一言で言えば、顧客満足を目指して効果的な支援がなされることが必要。
- ㊱ **安全と利便の両立ねらいは、結局は危険を生む**＝少々不便でも安全を重視すべし。

- ㊤ **災害関連死を最小にするには、声掛けが大事**＝情報を共有して、可能な対応をするように支援を依頼する。特に、非指定（私設）避難所には細心の注意を。
- ㊦ **聞いた話は、確認を**＝情報は様々聞こえてきますが、中には偽情報や不確かなものまで混在しています。自分に都合の良い情報に飛びつきたくなりますが・・・
- ㊧ **幽霊の涙風のようにならないで元気で過ごす**＝運動と希望を持ち続けてください。
- ㊨ **面的被害は被害のさらなる拡散への可能性あり**＝危険因子（リスク）が潜在化しているので、まずは余震への対策と応急危険度判定を受ける。
- ㊩ **身は自分で守るという気概は必要**＝もちろん支援を受けつつですが、行政の丸だのみは無理、できることはすること。ないものねだりは避けたい。
- ㊪ **自然災害の“終わりよければすべてよし”の終わりとは人命なり**＝危機管理を一元化した機構と常在の支援部隊を真剣に検討すべし。
- ㊫ **線の下の罫のような気持ちになる**＝様々な場面で、苦勞することが多い。それも考え方、先のためであるとして、奮い立たせる。
- ㊬ **避難で困るのはないないないづくしに加えて、寒さあり**＝健康被害が発生も懸念される。避難の場所の多様化必要。特に寒さ対策には十分な配慮が必要。
- ㊭ **戦争は愚か、自然災害は必然のなせること**＝避けるためには、相手を理解すること。どちらも勝ちはなく、克ことだけなり。
- ㊮ **ストック被害額の算定に厳密さを**＝過小でも過大でも地域再生する上での整合を図る上で重要。
- ㊯ **京に田舎ありではないが様々な被害がある**＝被害の調査を丁寧に、もれなく調査する必要がある。それが、今後の復興時に何をどうするのかの基本となるはず。

以上